

鳥取県

木の家だけじゃ、もったいない！

ソトにも木を使おう

木塀・ウッドデッキのすすめ

木の家だけじゃ、もったいない！

ソトにも木を使おう

木塀・ウッドデッキのすすめ

発行：鳥取県 生活環境部 暮らしの安心局 住まいまちづくり課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目220
TEL:0857-26-7371 FAX:0857-26-8113
E-mail:sumaimachizukuri@pref.tottori.lg.jp



あ、木の塀っていいな



設計施工:ウエノイエ

木の家の外回りには、やっぱり自然素材がよく似合います。

植物の緑や木の塀、ウッドデッキなど、家づくりは外構とセットで考えることで、ぐっと豊かな空間になります。

環境に優しく、鳥取の景観にもよく馴染む「木の塀」をあなたの家にも取り入れてみませんか。

外構を整えることで家が引き立つ

「あ、いいな」と感じる家を見かけた際、なぜそう感じるのでしょうか。

家そのものの外観が素敵であることはもちろんだと思いますが、実は、木の塀や植栽、ウッドデッキなどの「外構」を含めて、トータルでデザインされているからではないでしょうか。

逆に、家はこだわって作られているのに、外構は後回しでなんだかもった

いないなと感じることもあるでしょう。家づくりの際は、外構を別で、あるいは後で考えるのではなく、家とセットでプランニングされることをおすすめします。

木塀(ウッドフェンス)の魅力

近年のDIYブームも手伝って、まちに木の塀が増殖しています。あたたかみがあり、木造住宅との相性がよいことはもちろん、自由なデザインが

可能で軽くて取扱が容易であることも魅力のひとつだと考えられます。

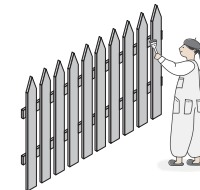
自然素材には、アルミや樹脂などの工業製品によるフェンスでは出せないあたたかみがあります。一方で、昔ながらの民家にしか似合わないということではなく、シャープなデザインとすることで、モダンな住宅を引き立てることもできる万能さが魅力です。

経年変化を楽しもう

屋外に木を使ったら「腐るんじゃないの?」「変色してしまうのでは?」そのような不安を感じる方も多いのではないのでしょうか。たしかに自然素材である木材は経年で変化する材料であるため、不安を取り除く適切な対策が必要です。

腐朽に繋がる原因を取り除くことや、劣化を防ぐ工夫をすること、適切なメンテナンスをすること。そのような適切な対策をすることで、長く付き合うことができます。

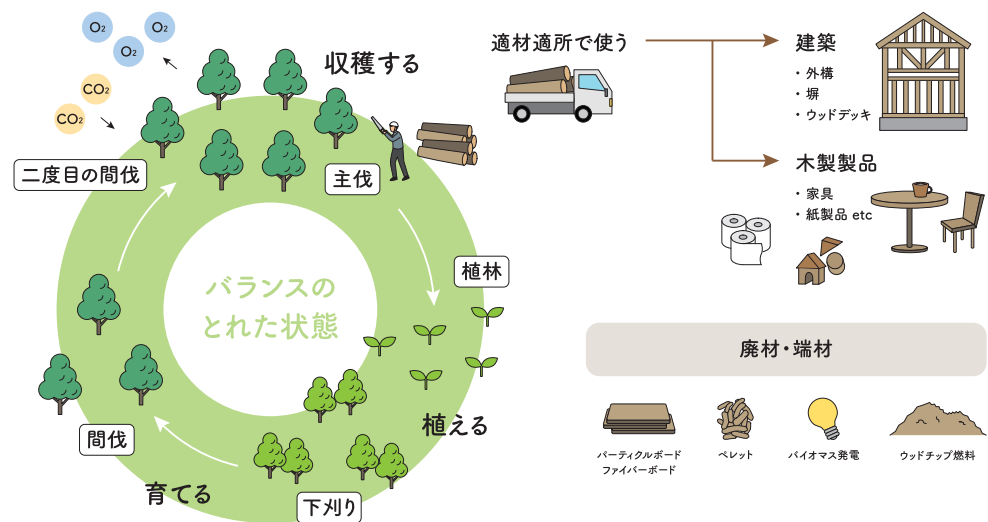
木材の表面は、経年によってシルバーグレイに変化したり、褐色に近づいたり、樹種や部位によって様々な表情を見せてくれます。ぜひ、長く付き合うことで木材の「味がでてくる」過程を楽しんでください。



塀をつくるなら鳥取の木で

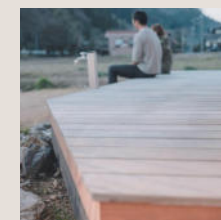
森林の樹木は、成長過程で吸収した大気中の二酸化炭素を貯蔵していますが、樹木の高齢化に伴い、森林吸収量は減少傾向となることから、利用期を迎えた人工林について「伐って、使って、植えて、育てる」森の資源サイクルを回していく必要があります。

住宅本体だけでなく、家のソトにも鳥取県産の木を使うことで、鳥取県の県土全体の7割以上を占める森林の健康や安心な森づくりに繋がります。更に、こうした個々の取組が、カーボンニュートラルや、地球温暖化の防止にも貢献できるのです。



Wood deck

坂本邸ウッドデッキ 施主様へのインタビュー



Q.ウッドデッキをどのように

活用されているか教えてください。

外にあるリビング空間のような形で、お天気が良ければテーブルを出して家族で食事をとったり、夜には照明をつけてバーベキューを楽しむこともあります。子どもがまだ小さいので、デッキにピクニックシートを敷いておやつを食べたりもしますね。ウッドデッキがあることで、気軽にアウトドア体験が楽しめるような感覚です。

Q.素晴らしい環境のお住まいで、

星空も楽しめそうです。

そうですね。ウッドデッキに寝転がって家族で星空を眺めたこともあります。子どもたちがもう少し大きくなって、遅くまで起きていられるようになったら、流星群も楽しみたいと考えています。

Q.薪棚もよくマッチしています。

ストックした薪を気軽に調達できる利便性を考慮して、ウッドデッキと一体化することにしました。屋根付きです。雪が降っていても濡れることなくアクセスでき、外部からの目隠しにもなるので、内側のウッドデッキの空間に屋外に収納したい道具をストックしたりといった形でも活用しています。

Q.ウッドデッキのお手入れや経年変化 についてはいかがでしょうか。

住宅には県産材を多く活用していますが、ウッドデッキには耐候性に優れた南洋材を使っていますので、今のところメンテナンスは水洗いして汚れを流す程度です。

家を建てる前は、木材というイメージがあったのですが、外壁に使用している

板材も含めて、木が身近にあることで、時間が経つことによって変化することも面白いと思うようになりました。

Q.外部にも積極的に木材を使って 大成功ですね。

外に木を使った空間があることで、アパートに住んでいたころに比べて、子ども達も外に出て遊ぶことが増えたと思います。ハンモックを設置したり、日よけのタープを設置したり、薪ストーブや薪割りも含めて、みんなで楽しんでいます。去年はよく雪が降ったので、ウッドデッキからアプローチできるすべり台も作って遊んだんですよ。



Wood fence

森田邸ウッドフェンス 株式会社建販 山内社長へのインタビュー

Q.大変美しい塀ですが、デザインのポイントを教えてください。

住宅に馴染むシャープな印象を狙って、見え方を随分と検討し、最も住宅と敷地に溶け込む寸法として、板の見付幅を50mm、板と板のクリアランスは20mmとしています。

高さは、道路側の視線の遮へいと、住宅内部からの眺望を両立できる1,200mmとしました。

Q.使用している木材について教えてください。

鳥取県産の杉材、中でも、赤身部分(心材)の柾目を指定して使っています。柾目は経年による収縮が少なく、赤身部分はマグロの大トロに例えられるように、高価ではありますが、白太(辺材)に比べて耐候性に優れています。更に経年により褐色に変化していくなど、味わいのある材料です。木

材は経年で劣化すると捉えられることが多いと思いますが、そうではなく、経年美化を味わうことのできる材料です。

Q.表面塗装とメンテナンスについて教えてください。

経年変化を楽しむため無塗装とすることもあります。今回はお客様との打ち合わせにより耐候性を持たせるこ

とのできる自然塗料で仕上げました。

メンテナンスについては、弊社では、竣工後、半年経過、1年経過、2年経過、5年経過の時点と、以降は5年ごとに住宅の定期点検を行っており、この際に現状を確認して塗り直しをご提案します。

ただし、塗装したほうがいいですよとお声を掛けるだけでは無責任です。お客様には塗料代のみご負担いただくのですが、作業は、弊社の社員と一緒に、ワークショップのような形で行うことをご提案しています。こうすることで、適切にメンテナンスを行っていただきながら、より愛着を持っていただくことにつながると考えています。

Q.大変素晴らしい取組です。

そのほかの工夫はありますか。

支柱にも木材を使用することは可能ですが、基礎に接する部分の防腐

措置が必要になることに加え、強度を確保しようとするとしても柱のサイズが大きくなりがちです。そのため、支柱はアルミ材としました。留付ビスについてもこだわって、耐候性に優れ、かつ経年変化を楽しめることのできる真鍮材を使用しているんですよ。

Q.ウッドフェンスやデッキなど、

敷地にも木材を活用するポイントを教えてください。

鳥取県の取組もあり、住宅本体には県産の木材を活用される方が多いと思いますが、ぜひプラスアルファで敷地にも目を向けていただき、外部にも木を使うことをご検討いただきたいと思います。敷地全体で考えることで、より住宅が引き立ち、トータルで美しいデザインとなります。そうすることで、まちの一部として、美しい景観にも繋がっていくのではないのでしょうか。

